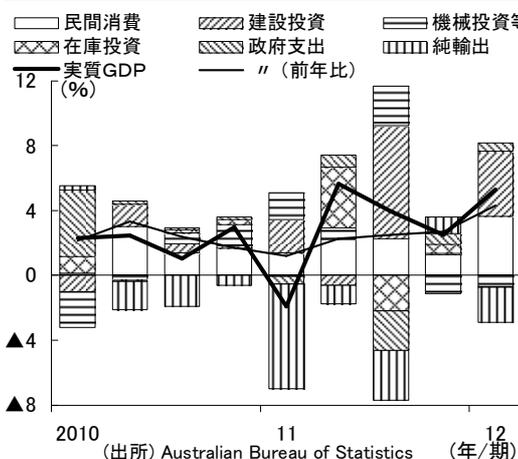


鉱業主導で豪州成長加速

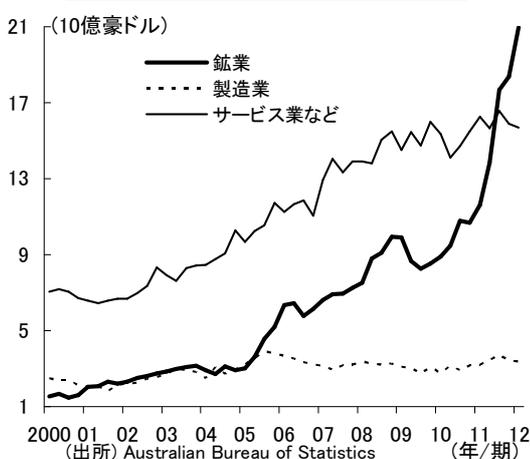
～ レアメタルを含め資源開発盛り上がり ～

- (1) 2012年1～3月期、オーストラリア経済が成長加速(図表1)。実質成長率を昨年10～12月期と対比すると、前年比で2.7%から4.3%、季調済前期比年率では2.5%から5.3%へ。牽引役は土木建設と民間消費。寄与度を昨年10～12月期と対比すると、まず土木建設が、季調済前期比年率で0.0%から4.4%へ+4.4%、次いで民間消費が1.3%から3.6%へ+2.3%。一方、外需は輸出減と輸入増で成長押し下げ。内需拡大を受けて消費財や資本財輸入が増加。
- (2) 土木建設をはじめ民間投資の大幅増は鉱業が牽引役(図表2)。石炭や鉄鉱石など従来分野に加え、このところレアメタル投資も本格化へ。世界的にレアメタル需給が逼迫の度を増すなか、早期再開が可能で採掘規模が大きい鉱山は、アメリカのマウンテンパスとオーストラリアのみ。さらにエネルギー需給の引き締まりが続き、石炭開発を中心に従来分野も一段と拍車。
- (3) 資源開発の盛り上がりが物流や電力網などインフラ整備に波及。本年入り後、雇用者数が再び増勢回復(図表3)。一方、名目賃金の増勢が昨年末の前年比3.8%増から本年に入り同4.4%に加速。さらに消費者物価上昇率が同2.5%から2.1%へ鈍化し、実質賃金の増勢加速。所得・雇用環境の改善で消費者マインドが一段と改善。
- (4) 鉱山開発は中国や先進各国からの外資流入が牽引役。対内直接投資は、リーマン・ショック後の一進一退から、昨年春以降、再び盛り上がり(図表4)。一方、対外直接投資は次第に低調に。本年1～3月期の経常収支は輸入増で赤字幅が拡大したものの▲156億豪ドルにとどまり、10年10～12月期の▲200億豪ドルを下回る水準。昨秋来、インドやブラジルをはじめ多くの新興諸国では、経常赤字拡大などから急速な通貨安が進行。しかし経常赤字問題が同国に波及する懸念小。資本流入を梃子にした鉱山開発の盛り上がりを原動力に本年の同国経済は3%台へ成長加速の見通し。

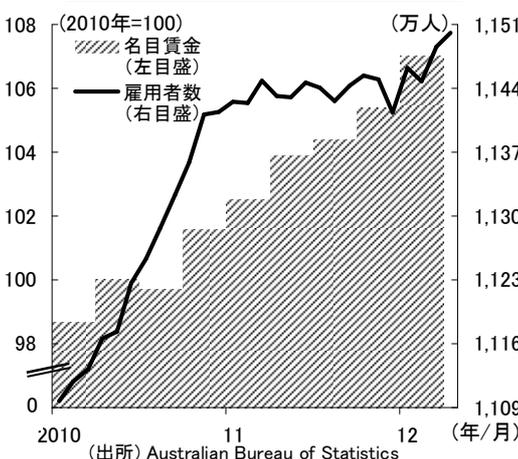
(図表1) オーストラリアの実質成長率(季調済年率)



(図表2) 分野別実質民間投資(季調済)



(図表3) 名目賃金と雇用者数(季調済)



(図表4) 対内対外直接投資と経常収支

